

第36回夏季大学「新しい気象学」開講のお知らせ ～天気予報最前線～

教育と普及委員会

主催：日本気象学会

後援：気象庁，日本地学教育学会，(財)気象業務支援センター

日本気象学会は，最新の気象学の普及を目指して，小・中・高等学校の先生方と気象を学ばれている学生や一般の方を対象とした講座を，毎年夏休みの時期に開催しています。

今年は，「天気予報」をテーマに取り上げます。天気予報の基となる数値予報モデルや観測システムは，近年目覚ましい発展を遂げています。また，天気予報の自由化や通信網の発達により，気象庁や民間気象会社から様々な天気情報が発信されています。講義ではこれらに直接携わる専門家の皆様をお招きし，最新の情報を紹介して頂きます。また，最終日の午後に，希望者を対象とした，気象庁予報官による天気予報実習を行います。

○開催日程（講義時間等は，次ページ参照）

平成14年8月8日（木）から8月10日（土）までの3日間，初日9時から受付開始

○講義会場

東京大学山上会館2階 大会議室
(東京都文京区本郷7-3-1 東京大学本郷キャンパス内)
なお，会場への交通の項と次ページの地図を参照して下さい。

○受講料（消費税含む）

一般5,500円，教員5,000円，気象学会員・学生4,500円
参加申込受付後，返信にて郵便口座への振込をお願いします。受講料の振込確認後，テキストと受講票を送付します。

○参加申込方法

以下に示した必要事項のみ記入して，往復葉書または電子メール（次項参照）にてお申し込みください。受付次第，受講の可否を返信します。なお，往復葉書の場合は復信に宛先を必ず記入し，電子メールの場合はSubject（件名）を必ず「夏季大学参加希望」として

1 「夏季大学参加希望」

2 住所・氏名

3 連絡先(電話番号等，平日日中に連絡がつくこと)

4 「天気予報実習」への参加希望の有無

5 テキストの送付先（2と異なる場合のみ）

6 その他

学生・教員の方は所属を，気象学会員の方は「気象学会員番号」を明記してください。

○参加申込先

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-3-4
気象庁内日本気象学会事務局

夏季大学申込用電子メールアドレスは，日本気象学会ホームページ (<http://www.soc.nii.ac.jp/msj>) のお知らせに掲載する予定です。

○申込締切

平成14年7月12日（金）必着。受付は先着順とし，定員(約100名)に達しましたら締め切らせて頂きます。

○お問い合わせ先

気象庁内 日本気象学会事務局
Tel. 03-3212-8341(内線2546) Fax. 03-3216-4401

●テキストのみ希望される方へ

葉書に，①夏季大学テキスト希望②必要部数③送付先の住所・氏名を明記し，申し込み下さい。テキストと振替用紙をお送りします。代金は1部1,000円(送料込)です。刊行部数が少ないので早めにお申し込み下さい。

●会場への交通

営団地下鉄丸の内線または都営地下鉄大江戸線
本郷三丁目駅下車徒歩10分

営団地下鉄南北線

東大前駅下車徒歩10分

営団地下鉄千代田線

湯島駅または根津駅下車いずれも徒歩10分

学バス東大構内行き

上野浅草口，お茶の水聖橋口：東大病院前下車

都バス荒川土手行き

東京駅丸の内北口：東大正門前下車

都バス駒込駅行き

東京駅八重洲口：東大正門前下車

第36回夏季大学「新しい気象学」 ～天気予報最前線～ 講義時間表

8月8日 (木) 10:00～11:30	全球数値予報モデルと週間天気予報 松村 崇行 気象庁数値予報課	コンピュータによる数値天気予報の歴史と世界の数値予報の現状、気象庁の将来計画について紹介する。また、週間予報に導入されたアンサンブル予報とその利用の仕方について解説する。
8月8日 (木) 13:00～14:30	メソ気象予報 郷田 治稔 気象庁数値予報課	メソ気象現象を予測するための数値予報モデルの歴史と現状、さらに木目細かい予測を旨とした非静力学モデルの将来計画について解説する。また、観測データを有効に利用するための同化手法についても触れる。
8月8日 (木) 15:00～16:30	メソ気象予報のための観測システム 石原 正仁 気象庁高層気象観測室	メソ気象予報を行うには、従来からの観測システムに加えて、メソ気象の大きさや寿命に適した観測システムが必要となる。ウィンドプロファイラやドップラーレーダーなどのメソ気象をターゲットとする新しい観測システムを紹介し、それらがメソ気象予報にどのように活用されていくのかを、実例を交えて解説する。
8月9日 (金) 10:00～11:30	最近の防災気象情報 岡田 憲治 気象庁予報課	大雨による土砂災害の危険度を推定する「土壌雨量指数」の考え方と近年の豪雨事例に適用した結果を紹介する。また、注意報・警報発表の細分区域の変更などの、防災気象情報の改善や、その利用方法、今後の計画についても紹介する。
8月9日 (金) 13:00～14:30	多チャンネル時代の気象情報 森田 正光 (株)ウェザーマップ	地上波デジタル放送の開始を控え、マスメディアによる気象情報伝達にどのような変化が起こっているか。各メディアで気象情報の伝達にどのような工夫を凝らしているか。現状と展望を述べる。
8月9日 (金) 15:00～16:30	『ブロードバンド時代』の天気予報 高塚 哲広 (株)ウェザーライン	携帯電話で気象情報はどのように使われているのだろうか。自宅やオフィスでのインターネットを介した気象情報の活用を、実例をあげて紹介するとともに、近未来の天気予報サービスに向けた試みを紹介する。
8月10日 (土) 10:00～11:30	客観的な天気翻訳技術 海老原 智 気象庁数値予報課	天気予報の基本資料であるガイダンスとは、数値予報結果を客観的に天気や降水確率などへ翻訳した資料である。その作成原理(カルマンフィルタやニューラルネット)について解説し、精度や問題点についても述べる。
8月10日 (土) 13:00～15:00	「天気予報実習」(希望者のみ) 前田 良一 他二名 気象庁予報課	実況天気図(地上、高層)、予想天気図、気象衛星写真など身近に入手できる資料を用いて、受講者に天気予報を実際に行ってもらおう。予報官が実際の予報作業を紹介しながら、予報の着眼点などわかりやすい解説を加える。

東京大学山上会館案内図

会場案内図

